

市民活動フェア2016参加企画

# 東日本大震災5年・子どもたちの健康と権利を守る・・・子どもたちを取り巻く環境はどうなっているのか 「原発避難白書」から考える

3月12日(土)午後1時30分 県民センター2階

ホール(横浜駅西口徒歩5分) 参加無料 当日受付 定員150名



主催 NPO 法人かながわ避難者と共にあゆむ会  
かながわ災害救援ボランティアサポートチーム

東日本大震災から5年。被災地の復興はどこまで達成されたのでしょうか。

そして福島原発事故により全国各地に避難している方々の生活はどのようになっているのでしょうか。また、この5年で避難生活の中で子どもたちを取り巻く環境はどのように変わってきたのでしょうか。福島県の平成29年3月のみなし仮設支援打ち切り宣言が出された現在私たちはどのように行動すべきなのでしょうか。「原発避難白書」の共同執筆者である木野龍逸さんを講師としてお招きし、その内容やそこから学ぶべきことなど、そして子どもたちの問題などを語っていただきます。

講師 木野龍逸さん ジャーナリスト 「原発避難白書」共同執筆者

千葉県出身。日本大学経済学部卒業。編集プロダクションに所属後、オーストラリア在住日本人向けフリーペーパーやアウトドア雑誌の編集部などを経て、現在フリーランス。自動車と環境やエネルギーとの関係、次世代自動車などについて、日本・アジア・欧米で取材を行ってきた。福島第一原子力発電所事故後、東京電力の記者会見に精力的に出席し続け、また日本国政府の会見や 福島県内での取材を続けている。

## 原発避難白書

なぜ国は、調べないのか。  
ならば調べる、私たちが。

どれだけの人が、いつ、どこへ、どのようにして逃れたのか。  
そして現在、彼らを取り巻く状況とはどのようなものなのか。  
ジャーナリスト、弁護士、研究者、支援者、被災当事者が  
経験し、見聞きしてきた被害の全貌を綴り、  
あの目を背け続ける、すべての人のために。

なぜ国は、調べないのか。ならば調べる、私たちが。

賠償・支援策など複雑に入り組む避難者状況を7つに分類。避難先の都道府県別調査データを初めて網羅。避難を続ける十数万人のために。

著者

関西学院大学 災害復興制度研究所／東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)  
／福島の子もたちを守る法律家ネットワーク(SAFLAN) 編 人文書院 発行

判型・ページ数 B5・244 ページ 定価 本体 3,000 円＋税

連絡先 高坂 090-2729-1246